

いわての学び 希望基金

[活用状況の御報告]

令和7年3月



ありがとう。



岩手県

新渡戸稲造の思いを胸に設立した基金は 皆様の温かい心によって子どもたちの支えに。

岩手の偉人の一人に「武士道」を著した新渡戸稲造がいます。

新渡戸稲造は、今から百年以上前、札幌農学校教授時代に、家庭の事情で学校に行けなかった子らを集めた無料の夜学校「遠友（えんゆう）夜学校」を設立しました。

その設立は、子どもたちに、「学ぶ楽しさを教え、将来、社会に役立つ人物になってほしい」との思いによるものと言われています。

「いわての学び希望基金」は、新渡戸稲造の精神を受け継ぎ、子どもたちが社会に出るまでに必要な「暮らし」と「学び」に役立てられ、皆様からの御支援が、子どもたちの希望と未来を創っています。

目次

子どもたちをめぐる復興の状況	3~4
私たちのいま	5~6
感謝の気持ち	7~8
エール	9~10
「いわての学び希望基金」活用状況	11~14

トピラ写真：大槌町の蓬莱島

はじめに

令和7年3月
岩手県知事

達増拓也



平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波により、岩手県では、災害関連死を含め5,147人の方が亡くなり、未だ1,107人の方が行方不明となっているなど、沿岸地域を中心に甚大な被害が発生しました。

また、東日本大震災津波により584人もの子どもたちが親を亡くしたほか、親が仕事を失うなど、子どもたちを取り巻く環境も一変し、多くの子どもたちが、経済的な理由により就学を断念することが懸念されていました。このことから、県では、こうした子どもたちに対し、自らの希望する進路を選択し、社会人として独り立ちするまで、継続的な支援を行うことを目的に、平成23年6月に「いわての学び希望基金」を創設しました。

「いわての学び希望基金」には、これまで、国内外の多くの皆様から107億円を超える御寄附をいただいております。被災地の子どもたちへの奨学金給付や教科書等の購入費、部活動遠征費の補助、通学費用の負担軽減など、子どもたちが社会に出るまでに必要な「暮らし」と「学び」の支援を行ってまいりました。これもひとえに温かい御支援をくださった皆様のおかげであり、心から感謝申し上げます。

東日本大震災津波の発生から14年が経過し、復興の歩みは着実に進んでいる一方で、完成していない社会資本の早期整備、こころのケアや生活相談などの被災者支援、被災した子どもたちへの支援といった復興固有の残された課題や、原油価格・物価高騰問題や主要魚種の不漁、今後起こり得る巨大地震・津波への対応といった復興の進捗に影響を与えている新たな課題など、被災地には引き続き取り組むべき課題があり、一人一人の状況に応じたきめ細かい支援が必要となっています。

県では、「いわて県民計画(2019~2028)」において、「東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」を基本目標として掲げ、引き続き復興を県の最重要課題と位置付けながら、「誰一人として取り残さない」という理念の下、三陸のより良い復興の実現に向けた取組を進めてまいりますので、一層の御支援をお願い申し上げます。

結びに、本小冊子により、支援をいただいた子どもたちから全国の皆様への感謝をお伝えするとともに、被災地の子どもたちが東日本大震災津波を乗り越えて進む姿を発信することで、多くの皆様に岩手の復興の今を御理解いただくことを願い、発刊のことばといたします。

子どもたちをめぐる復興の状況

郷土を愛し、復興・発展を支える人材を育てています。



東日本大震災津波伝承館外観

■東日本大震災津波伝承館 いわてTSUNAMIメモリアル 復興教育での活用

東日本大震災津波伝承館は、「東日本大震災津波の事実と教訓」を全世界の人々と未来へ伝承する場として令和元年9月22日に開館しました。

開館以来、岩手県内外の児童生徒が数多く来館し、解説員の説明を聞くなどして学習しています。津波で被災した消防車などの被災物の見学、三陸地方を襲った津波の歴史や命を守る行動、「つなみてんでんこ」に込められた意味など、東日本大震災津波を経験していない児童生徒も一から学べるよう展示しています。

また、小学生用に「震災津波学習ノート」、中学・高校生用に「震災津波伝承ノート」を用意しています。見学前の事前学習や見学時に学んだことを記入し、考えや思いをまとめる構成になっており、見学後の自分の生活や学校での復興教育に活用されています。



■公立学校施設の復旧状況(沿岸地域)

被災学校数 86校

工事完了 86校 100%

岩手県沿岸地域では、東日本大震災津波により86校の学校が被害を受けましたが、平成31年1月までに全ての学校が復旧しました。

■公立文化施設・体育施設の復旧状況

整備予定施設数 67施設

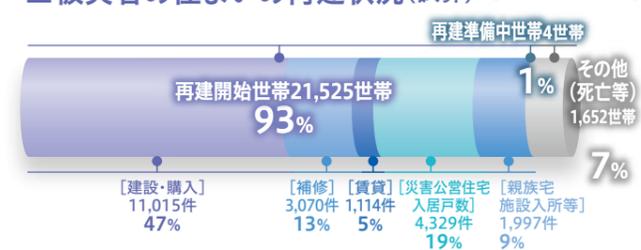
工事完了 67施設 100%

岩手県では、東日本大震災津波により69施設(文化会館などの文化施設11件、体育館や野球場等の体育施設58件)が被害を受けました。このうち、復旧することとした67施設は、令和3年7月までに全ての施設が復旧しました。



高台に再建された陸前高田市立気仙小学校(陸前高田市提供)

■被災者の住まいの再建状況(試算) [令和6年3月31日現在]



※住宅の再建を開始した者に支給される被災者生活再建支援金(加算支援金)の支給件数15,199件に、災害公営住宅入居戸数4,329戸、親族宅施設入所戸数等1,997戸を加えた数値を、住まいの再建が開始された数とみなして試算したもの。

■いわての復興教育

震災の教訓から得た3つの教育的価値【いきる】【かかわる】【そなえる】

岩手県では、郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するため、県内全ての公立小・中学校及び県立高等学校・特別支援学校で、「いわての復興教育」プログラムに基づきながら、震災津波の教訓から得た3つの教育的価値を育てています。



「いわての復興教育」プログラム

震災の教訓から得た3つの教育的価値

- ◆【いきる】 震災津波の経験を踏まえた生命の大切さ・心のあり方・心身の健康
- ◆【かかわる】 震災津波の経験を踏まえた人の絆の大切さ・地域づくり・社会参画
- ◆【そなえる】 震災津波の経験を踏まえた自然災害の理解・防災や安全



復興教育の学習風景

■子どものこころのケアセンター設置

震災や被災生活により大きなストレスを抱える子どもたちの心のケアに対応するため、平成23年に「子どものこころのケアセンター」を宮古・気仙・釜石地区に開設し、平成25年には、中長期的に継続した支援を行う拠点として、岩手医科大学(矢巾町)内に「いわてこどもケアセンター」を開設しました。

震災から14年が経過しましたが、遅発性の不調や子どもたちの成長に伴う新たな心理・行動・社会的な課題がみられるため、令和元年9月からは、同大学附属病院に開設された児童精神科と密接な連携を図りながら、児童精神科医、臨床心理士、精神保健福祉士など、多職種チームにより専門的なケアを継続して行っています。



スタッフ写真



巡回相談風景



大船渡市役所 農林水産部
こいずみあまね
小泉海音さん(23歳)

私たちのいま

「いわての学び希望基金」の
支援を受けた子どもたちが
巣立った今、その奮闘
する姿を伝えます。



VCA Japan 合同会社
杉田動物病院 獣医師
さとうしん
佐藤森さん(26歳)



山林を守り、市民の声に耳を傾ける職員へ

宮城県の大学を卒業し、令和5年4月より大船渡市役所に勤務する小泉海音さん。配属先の農林水産部農林課では森林病虫害の駆除・防除業務を担当している。入庁からおよそ半年、「今は春の駆除業務を無事終えた達成感を感じつつ、秋(の駆除)へ向かって気持ちを新たにしているところ」と、取り組む仕事への意欲と情熱をにじませる。

岩手県でも各地から報告が寄せられる、マツクイムシなど森林病虫害の報告。特に三陸沿岸はマツクイムシ被害の先端地域といわれ、沿岸地域の被害を北上させないように駆除そして防除が欠かせない。小泉さんら農林課では、岩手県が実施した報告書をもとに大船渡市内の山林を調査。山に分け入りアカマツなど樹木の枯損状況を把握し、駆除・防除エリアを定めていく。「登山ルートもない山の中を歩き回る調査。最初はついていくのが精一杯だった」と笑う。

震災発生時は小学校4年生。母を亡くした悲しみに耳を傾けてくれたのが、ボランティアとして岩手を訪れていた多くの大人たちだった。「こんな風に、私も他者に手を差し伸べられる人になりたい」——心に灯った夢、叶えるためには就職か進学かで悩む背中を押してくれた要因の

ひとつが、いわての学び希望基金などの支援だった。大学では地域構想をテーマに学部を選び、津波防災に関するゼミにも所属した。卒業後は地元に戻り、震災で被害を受けた町の発展に貢献できる仕事に就くと決めていたからだ。

森林病虫害の駆除・防除はチームワーク。あらかじめ調査した対象地を、市職員と実施業者が連携して事業を遂行する。一方で、市民からマツクイムシ被害の相談や問い合わせの電話が入ることも。「市民の声にも耳を傾け、方法を模索するのも私たち職員の仕事」と、前を見つめる。

震災では多くのものを失った反面、人の力の素晴らしさを知った。実際に出会った震災ボランティアは言うまでもないが、岩手を訪れたこともなく、ましてや顔も知らない岩手の子どもたちを「基金」を通して支援してくれる方々の存在は大きく、「本当にありがたかった」と小泉さんは言う。感謝の気持ちは今、市民に寄り添う市職員としての使命感ややりがいへと繋がっている。

秋を迎え、間も無く今年2度目の駆除・防除事業がスタートする。岩手の豊かな自然環境と人々の暮らしを守るため、小泉さんは今日も山に出かけていくことだろう。

(取材日:令和5年10月)

獣医師の夢を叶え、次は自分が支える側へ

獣医学部での6年間の学びを経て、令和5年春から千葉県内にある動物病院に獣医師として勤務する佐藤森さん。「今は毎日学ぶことばかり。大変なこともあります、それを含めて楽しい」と、日々の診療に取り組んでいる。

佐藤さんの勤務する杉田動物病院は、一般診療から高度な獣医療も担う地域の中核病院。それゆえ様々な状況の患畜への対応が求められる。治療はもちろんだが、それと同時に佐藤さんが大事にしているのが飼い主との関係。「飼い主に寄り添った診療を心がけること、さらに飼い主が気づかないペットの変化にも気づける獣医師になりたい」と、きめ細かなコミュニケーションを心がけている。

12年前、山田町の避難所で出会った一匹の犬。誰にも顧みられず繋がれたままのその犬に、母を亡くした自分が重なったという佐藤さん。散歩をさせながら犬に身の上を相談するようになり、言葉はなくても動物が人を支える存在であることを痛感した。「生きていくのも大変な中で獣医師になるという夢を描けたのは、基金など様々な支援があったからでした」と佐藤さん。獣医学部に合格し、自分を支えてくれた犬や猫の獣医師になるという夢を叶えた。

故郷を離れた今も、郷里の山田町に思いを寄せる佐藤さん。「支えてくれた友人や家族、親戚や近隣の方々に成長した自分を見て欲しい」とも思っている。さらに現在は東日本大震災の遺児や孤児を支援する団体にも参加し、年齢が近いことを生かして子どもたちの希望をヒアリング、具体的な支援につなげる活動も行っている。先日行われたチャリティーオークションではスタッフとして関わり、多くの寄附が集まったという。「誰かが喜ぶ顔を見られるのが自分の喜びであり楽しみになった」と笑顔を見せる佐藤さん、これも彼なりの「恩返し」のひとつなのだ。

「こうして夢を叶え、獣医師として働けるのは多くの人の思いと基金などの支援があったから。それがなければ大学進学という選択肢もなかったかも…。だからこそ、次は自分自身が子どもたちの夢を支援する側になりたい」これまでの道のりを振り返りつつ、新たな活動にも取り組み出した佐藤さん。獣医師としてはさらなる研鑽を積み、ペットと飼い主がより長く共に暮らしていける環境づくりをサポートしていきたいと考えている。支援される側から支援する側へ、新たな未来づくりは始まっている。

(取材日:令和5年9月)

感謝の気持ち

「いわての学び希望基金」の支援を受けた子どもたちから、御支援
いただいた皆様への、感謝のメッセージです。
ほかにもたくさんのメッセージが寄せられています。県ホームページ
(QRコード)からぜひご覧ください。



社会人1年目

寄附者の皆様、いままでたくさんのご支援をいただきありがとうございます。
お陰様で、専門学校も無事卒業し、4月から新社会人として働くことができて
います。慣れない生活で、不安な事はたくさんありますが、これから学ぶこと
をたゆまずに、大前の社会人になるよう頑張りたいと思います。
本当にありがとうございます。

社会人1年目

「いわての学び希望基金」様より、奨学金のご支援をいただきましたこと、誠に感謝し
ております。おかげです、何となく高校生活を乗り、勉学に励むことができて
ました。そのお陰で、大学受験も満足のいくものになりました。大学生活は1人暮らしで留
学費も経験費、利便費が多く充実した4年間でした。実りの学生生活を暮ら
す4月から社会人として日々働いています。分からないことは必ず先生に聞いてもら
い、少しずつ自分の成長を感じることができています。与えられてばかりだった学生の私が、働
くことで少しでも社会に貢献できるということが嬉しいです。皆様のご支援が、今までの
充実した生活を支えてくれたことを忘れず、これから仕事に励んでまいります。
改めて、奨学金を給付いただき、ありがとうございます。

高等学校3年

私たちのために「いわての学び希望基金」に寄附して
頂きありがとうございます。
決して不安な気持ちを抱えて高校に入学したことを
覚えています。気づけば多くの素敵な仲間や先
生方に恵まれ、楽しく過ごすことができました。3年間
無欠席で通い、勉強だけでなく部活動や学校行事、
ボランティア活動などに全力で取り組めたのは多く
の方々のご支援のおかげです。
高校卒業後は進学し、保育士資格の取得を目指
しています。震災当時の私は保育関係でしたが、あの
時私たちが守って下さった先生方のように強く優しく、
そしてあたたかく子どもたちの心を支えて下さるような
先生になれるよう、これからも努力致します。
本当にありがとうございます。

高等学校3年

平素よりご支援いただき、本当にありがとうございます。
私は今、受験生になりました。日々不自由なく学業に励む
ことができて、私立大学への進学を目指すことができたのも、
皆様のご支援のおかげです。
大学では福祉についての学びが、とくに好きで、知識を、
地域やそこに住む人々の役に立てるように努めたいです。
皆様への感謝を忘れず、目標達成に向けてこれから
学業に励んでいきたいと考えています。
改めて、たくさんのご支援本当にありがとうございます。

社会人1年目

震災後から大学卒業まで「いわての学び希望基金」の
支援を頂き心から感謝してあります。
本当にありがとうございます。
皆様の寄附のおかげで、大学生活を送ることができて、
就職先が県外でも震災の事、自分が震災を経験した事
小学校教諭として子供達に伝えていきたいと思っております。
そして皆様への感謝の気持ちを忘れず日々頑張
りたいと思っております。ありがとうございます。

社会人1年目

寄附者の皆様、今まで多大なるご支援をいただき、
誠にありがとうございます。
皆様の支援のおかげで4年間、自分の興味・関心のある
学問を学ぶことができて、小さい頃から夢を叶えることが
出来た。私は東日本大震災の津波で亡くなった母との
かけがえのない思い出とある映画で鮮明に思い出した経験が
あり、そこから「自分を誰かにとってかけがえのない大切な思い出に
する」という映像やアイデアを作る仕事に携わりたいと
強く思っていました。そして、今、人の心を動かす起爆剤に
なるようなCMをプロデュースする仕事に就いてあります。
早く仕事を覚え、世の中の役に立つCMをプロデュース
したいと考えています。
この道に進むことが出来たのも、大学に進学することが
出来たからだと心から思っています。
改めて、支援していただきありがとうございます。

高等学校3年

私たちのために「いわての学び希望基金」に寄附して
頂き本当にありがとうございます。
私は、保育士の頃に震災を体験し、辛いことが
沢山ありました。あの時から今でも日本全国、また
世界からの支援のおかげで強く生きていくことが
できました。そして、小学5年生からずっと「語学塾」
に通い、英語を学ぶことができています。「いわての学び
希望基金」に寄附して頂いたおかげで私は、恵まれた
環境で学習ができることにとても感謝しています。また
将来はCAになりたいと考えており、高校卒業後は
仙台の国際関係の大学への進学を考えています。
進学後、不安はありますが、ご支援してくださった
方々への感謝も忘れず、日々頑張りたいと思
います。最後にありがとうございます。「いわての学び希望基金」
に寄附していただき、本当にありがとうございます。

高等学校3年

私は母子家庭のため日々一人暮らし
働いてくれている母にできるだけ負担
をかけないようにと考えております。
なのでいわての学び希望基金はとても
助かっています。
現在私はグラフィック業界に興味か
あります。私はある動画をみて結婚式
は一人一人様々な良い所がありとても
感動しました。それから私はグラフィック
業界に携わる仕事につきたいと思っ
たようになります。そして私は将来
たよられるようなグラフィックプランナー
になれるようしっかり学んでいきたいと思っ
ています。
ご支援いただいた方々のおかげで日々生活
を送ることができているという気持ちを
寄附して下さった全ての方々に心よりお礼
申し上げます。

社会人1年目

ご支援いただき、ありがとうございます。ご支援いただき、
小学校の頃からずっと看護師学校に入学することができ、今のうちに
看護師として働くことができています。東日本大震災も犠牲にならずに
乗り切ったように感じています。ご支援のおかげで私は看護師に
なりたてたいという思いが、強くなりました。本当にありがとうございます。
誰かのために役立つ日々頑張りたいです。

社会人1年目

私は地元で保育、地域の金融機関で働いています。
少子化、地元へ戻るといって地域の方への負担は大きい。少子化を
早く解決したいです。知人との学びを活かして、日々学んでい
かりに充実した生活を送りたいです。私も今まで支援して頂いたお
かげで、寄附して頂いたおかげで、毎月お金の支えを頂き、決して
困窮することがありません。本当に感謝の気持ちです。
これから、地域のいろいろな活動やイベントで地域貢献でき
るよう頑張ります。今後ともよろしくお願いいたします。

高等学校3年

私は今、薬剤師になるため薬学部への進学を目指し勉強に励んで
います。これからも受験本番に向けて1日1日を大切に頑張ります。
震災当時私は幼稚園の年中でした。幼く何ができるわけでもなく
ピンピン進んでいく状況に果敢としていました。知り合いのいない
小学校へ通うことになったときも不安でいっぱいでした。しかし、
時間の流れとともにだんだんと気持ちの整理ができていきました。
それは私たちが家族を支えてくれた親族や友人などの周りの方々、
そして遠い地域の方々からの温かい援助のおかげです。
これからも感謝の気持ちを忘れず頑張りたいです。皆様から
いただいたご恩を少しでもお返しできるよう全力で夢に向
って進んでいきたいです。ご支援本当にありがとうございます。

高等学校3年

「いわての学び希望基金」に寄附していただきありがとうございます。
今は、自分の希望の学校に入学するために、学校生活も勉強も頑張
り、私生活も充実させていきたいです。専門学校の入学から勉強も
来校も頑張りたいです。
私は東日本大震災で母親を失いました。当時小学校に入学する前の小
さい子どもながら、母親の死を受け継ぐ事が出来ず、毎日泣いては過
していました。でも、その中でたくさんの方々に支援していただき、
助けて下さる方々のおかげで、今は毎日笑顔で生活しています。
助けて下さる方々にならなりたいです。そして、思いつく限りの生活
に感謝しています。本当にありがとうございます。

エール

子どもたちの支えとなる皆様からの善意の心。
御支援いただいている方々のいわての子どもたちへの想いを御紹介します。

Run for Children！～走れる幸せを、誰かの幸せにつなげよう～

一般財団法人東京マラソン財団 スポーツレガシー事業(東京都)

東京マラソンでは、毎年寄付金及びチャリティランナーを募集しており、希望をする方は賛同する事業に一定額以上の寄付をしてチャリティランナーとして参加することができます。私たちスポーツレガシー事業では「スポーツイベント等を通じた社会的課題解決の試み」の中で、東日本大震災の被災地育英事業を選択し、寄付することができます。チャリティランナーからのメッセージを、エールに変えて、紹介させていただきます。

「40歳の年から毎年東北の育英事業のチャリティランナーとして東京マラソンを走って来ました。無事子供たちが社会人になるまで毎年参加したいです。」(48歳男性)

「被災地の育英事業に寄付をすることで、子どもたちの未来への希望と支援の輪を広げたい。子どもたちが笑顔で成長できる社会の実現に向けて、精一杯頑張る姿を表せたらと思います。」(25歳男性) (寄稿日:令和5年10月)



東京マラソン2017の様子

いわての温かさに触れて

文京学院大学「東日本大震災復興支援プロジェクト」ブレイメンズ(東京都)

私たちブレイメンズは東日本大震災を機に発足し、学生のクリエイティブの力で社会貢献を続けています。マーケティングやデザインを学ぶ学生が中心となって、商品をデザイン・制作・販売し、売上げの全額を東日本大震災をはじめ、各地の災害支援団体に寄付する活動を行っています。

初めは「誰かの役に立ちたい」そんな漠然とした想いからブレイメンズに参加した学生がほとんどです。しかし活動の中で実際に現地に足を運び、メディアでは報道されることのない被災地域の現実を学び、岩手の方々の温かさに触れることで「私たちに出来ること、やるべきことは何か」そんな考えへと変化し、復興支援に対する強い想いを持って活動を行っています。実際に勇気を頂い

ているのは私たちの方なのではないかと思っています。

震災当時私たちは小学校低学年でした。活動を続けることが震災の記憶の継承になるよう、これからも支援を続けて参ります。ともに頑張りましょう!

(寄稿日:令和5年10月)



吾が再生の地岩手の若者へ

医師・山形大学名誉教授 本山 佛一 (新潟県)

およそ50数年前、10代の最後、どう生きたらいいのか分からなくなり、只々苦しい思いがして、行先も定めず列車に乗り、降り立ったのが多分陸前高田でした。そこから三陸海岸沿いを彷徨うように北上して行きました。崖の上の道路や浜の松林の間から明るく輝く海を眺め、日々の営みをする人たちを見ているうちに次第に気持ちが落ち着いてきました。そして「俺は本当は何をしたいのだろうか?」と静かに自問できるようになり、やがて「自分らしく生きたい」という強

い気持ちが芽生えてきました。つまり、三陸岩手は私に再生の切っ掛けを与えてくれた地でした。それだけに3.11は私にとっても衝撃でした。毎年『いわての学び希望基金』の活用状況の報告書を送っていただいています。一番の楽しみは、表紙を飾る君たち若者の姿を見ることです。悲しみと苦難を経験してきている君たちの笑顔は本当の笑顔です。未来に向かう笑顔です。君たちが創り出す未来が楽しみです。

(寄稿日:令和5年10月)

いわての子どもたちへエール寄稿を募集します。
寄稿方法は県ホームページをご覧ください。

スマホは
こちらから



全国から寄せられたメッセージ

「いわての学び希望基金」への御支援の際、多く励ましの言葉や子どもたちへのメッセージを頂いています。

(令和4年度・令和5年度に頂いたメッセージの一部を掲載しています)

- これからも応援しています。
- 忘れない。一緒に歩んでいます。
- 震災を経験した子どもたち その子どもたちが毎日楽しく健やかに過ごせますように。
- また3月11日がやってきました。幼かった娘と同世代の被災地の子供達のためと思ひ震災後毎年寄付を始めました。これは、公助ではなく同じ地域に暮らす者として自助に値するものと思っています。
- 若いころに育てていただいた岩手県と岩手のみなさんに、ずっとずっと心から感謝しています。久しぶりにぜひ伺いたいです。
- 震災で苦労している岩手の子供たちを思いちょびっとですが寄付させていただきます。
- あまり頑張らなくていいからね
- 我が家にいる、被災地で救出された赤ちゃんだったわんこが11才になり、時を感じる一方で、復興がどの程度進んでいるのかも気になります。心ばかりですが、皆さんのお役に立てればと思います。
- 東日本大震災から12年目を迎えようとしています。東北は復興しましたか。被災の子供たちは復活しているのでしょうか。子ども達の学びの機会が十分に得られる状況になっているのでしょうか。まだまだ忘れてはいけません。被災の子供たちの幸せを祈ります。
- 頑張れ!岩手!今春からは故郷岩手に帰り、直接何らかお役に立てるよう努めます!応援します!!
- 今年も少ないですが寄付させていただきます。少しでも子供たちの学びや生活に役立ててもらえればうれしい限りです。物価高で大変だと思いますが最大限有効活用できるように考えてお使いください。
- がんばれ岩手の子供たち
- 子供たちが幸せに育まれていくことを願っています。
- 立派な大人に育て下さい!
- 岩手の子供さんへ いつも応援しています。
- 娘の卒園式の日に震災があり、当時の日のことは鮮明に覚えています。そんな娘も18歳です。子を持つ親として少しでも支援へ協力したいと思いました。
- 微力ですがこれからもずっと応援します
- 震災からまだ11年。震災の年に生まれた子供は10歳。震災以外にも経済は苦しくなるばかり。経済的困窮が子供達の将来を閉ざすことにならないように…。どんな立場であっても学ぶことで将来を切り開いてほしい。そう思いながら僅かですが寄付させていただきます。
- 11年になりますが皆さまが経済の心配なく勉学、生活されることをお祈りします。
- 未来を担う子どもたちが希望をもってすくすく育っていただきますように。

「いわての学び希望基金」活用状況

皆さまから寄せられた御支援は、子どもたちの「暮らし」と「学び」に役立てられています。



震災学習列車で学習する子どもたち

■ 寄附金の受付状況 [令和6年3月31日現在]

件数 **28,276件**
 総額 **約107億4,550万円**

アイルランド、アメリカ、イギリス、イタリア、オーストラリア、カナダ、スイス、スペイン、セネガル、ドイツ、フランスなど世界各国からご支援を頂いています。

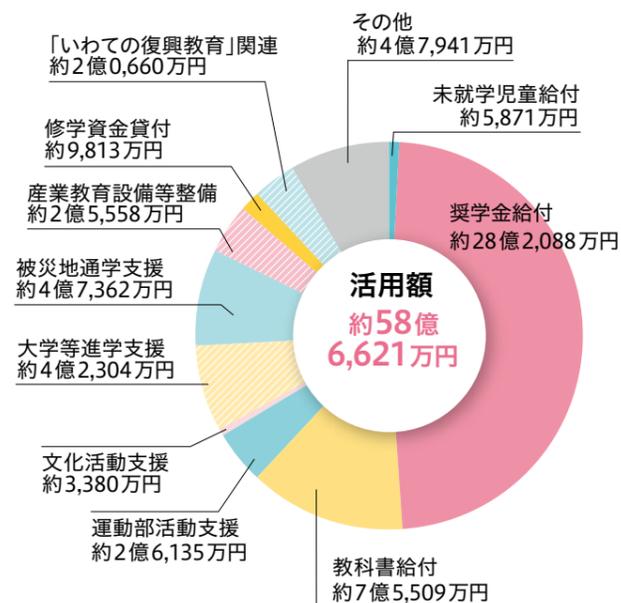
■ 本県の津波震災孤児・遺児の状況 (発災当時18歳未満の方)

孤児(両親を失った子ども) **94人**

遺児(父または母を失った子ども) **490人**

孤児・遺児を対象とした奨学金について、平成30年4月からは、月額給付額を増額するほか、大学院生を対象を拡大して給付しています。

■ 基金活用実績 [令和6年3月31日現在]



■ 社会に巣立つまでの学費等の支援

東日本大震災津波により被災し、親を失った児童・生徒等に対し、奨学金等を給付し、「暮らし」と「学び」の支援を行っています。

【奨学金等給付対象と給付金額】

給付対象	給付金額
未就学児童	(H29年度で終了)
小学生	(R5年度で終了)
中学生	月額 4万円
高校生	月額 5万円
大学生等(自宅)	月額 6万円
大学生等(自宅外)	月額 10万円
大学院生等(自宅)	月額 6万円
大学院生等(自宅外)	月額 10万円
一時金	
小学校入学時	6万円
小学校卒業時	15万円
中学校卒業時	25万円
高等学校卒業時(自宅)	30万円
高等学校卒業時(自宅外)	60万円

[平成30年4月~]

【令和5年度までの奨学金等支給人数】

(単位:延べ人)

	未就学児	小学生	中学生	高校生	大学生・ 専門学校生等	大学院生	合計
平成23年度	85	190	137	149	66	0	627
平成24年度	73	172	130	150	75	0	600
平成25年度	59	152	117	149	101	0	578
平成26年度	44	129	107	140	121	0	541
平成27年度	29	114	102	130	133	0	508
平成28年度	19	91	102	115	123	0	450
平成29年度	5	86	84	104	134	0	413
平成30年度	1	75	71	101	110	7	365
令和元年度	0	61	52	102	104	8	327
令和2年度	0	45	47	85	109	5	291
令和3年度	0	30	45	73	96	6	250
令和4年度	0	20	41	51	100	3	215
令和5年度	0	6	38	49	92	2	187
合計	315	1,171	1,073	1,398	1,364	31	5,352

■ 被災児童・生徒の支援

被災地では、インフラ整備や住宅再建など、復興に向けた歩みが着実に進展している一方で、未だに様々な困難や制約を受けながら、精一杯、学業や部活動に励んでいる子どもたちがいます。

いわての学び希望基金は、こうした子どもたちの健やかな成長が図られるよう、環境の変化や被災地のニーズに対応し、被災児童生徒への支援を行っています。

■ 教科書購入費等給付事業

東日本大震災津波で被災した高校生に対し、入学一時金、教科用図書、修学旅行費を支援しています。

給付内容	給付額	給付時期
入学一時金	250,000円	入学年度
教科用図書購入費	15,000円	年度ごと
修学旅行費	実費 ※公立校の場合: 上限90,000円	修学旅行実施年度

■ 被災地生徒運動部活動支援事業

運動部活動において、東日本大震災津波で被災した中学生、高校生がこれまでと変わらず県内外の大会に参加するために必要な交通費等を支援しています。

■ 被災地生徒文化活動支援事業

文化活動において、東日本大震災津波で被災した中学生、高校生がこれまでと変わらず県内外の大会やセミナーに参加するために必要な交通費等を支援しています。

事業	主な給付内容
運動部活動支援	・大会出場経費(参加料、交通費、宿泊費) ・ヨット競技艇等の運搬費 ・負担金等補助
文化活動支援	・大会出場経費(参加料、交通費、宿泊費)



■ 大学等進学支援一時金給付事業

東日本大震災津波で被災した孤児・遺児以外の高校生等に対して一時金を給付し、進学等に伴う準備費用を支援しています。

給付内容
自宅通学者：300,000円
自宅外(賃貸借住宅等)通学者：600,000円

■ 被災地通学支援事業費補助

東日本大震災津波で被災した生徒等の通学を支援するため、通学定期券の購入を助成しています。

補助対象	主な給付内容
沿岸12市町村に居住している生徒等	通学定期券購入費の1/2 ※震災遺児・孤児は購入費の2/3

■ 被災地域県立学校産業教育設備等整備費

被災地域の高等学校の実習用設備及び部活動設備を整備しました。(平成28年度～令和2年度)

整備した実習用設備	整備した部活用設備
<ul style="list-style-type: none"> NC加工実習システム 万能製図台 潜水器具 等 	<ul style="list-style-type: none"> 競技用ヨット スクラムマシン 打楽器(和太鼓・ティンパニー)等

■ 修学資金貸付等(医師・看護師・保育士)

東日本大震災津波で被災した学生等が、医師、看護師及び保育士になろうとする場合に、修学資金を貸し付け、修学を支援しています。

県内の病院等で一定期間勤務するなどの条件を満たすことで、貸付金の返済が免除されます。

■ 学校の入学料等の減免

東日本大震災津波で被災した生徒等を対象に、県立学校(高校、岩手県立大学、看護師養成所等)及び私立学校(幼稚園、小学校、中学校、高校等)の入学選考料や入学料、授業料などを免除しています。



■ 「いわての復興教育」の推進

■ いわての復興教育推進事業

沿岸地域の小・中学校、義務教育学校及び県立学校から「いわての復興教育スクール」推進校を指定し、児童生徒による実践発表会などを行っています。

「いわての復興教育」副読本を活用した学習を県内全ての公立学校で実施することにより、地域の復興・発展を担うひとづくりを目指します。

「いわての復興教育」の3つの教育的価値をテーマにした「絵本」を制作し、県内の幼稚園や保育所、図書館、公民館等に配架し、読み聞かせなどにより、震災の教訓を次の世代に語り継いでいきます。



児童生徒実践発表会の様子



学校防災アドバイザー派遣事業の活用

「いわての復興教育」絵本

■ 再建した野外活動センターでの復興教育研修プログラムの実施

東日本大震災津波で被災し、移転・新築により令和3年7月に再オープンした県立野外活動センター(愛称：ひろたハマラインパーク)は、各種野外活動やスポーツ合宿等ができる研修施設です。また、「いわての復興教育」として、避難所運営ゲーム、東日本大震災津波伝承館や震災遺構における震災の事実と教訓の伝承、三陸鉄道学習列車、漁業体験など、周辺地域の施設や団体等と連携した研修を行うこともできます。



ひろたハマラインパーク全景

漁業体験の様子

御寄附の 御案内

いわての学び希望基金への 御協力をお願いします。

個人の方

個人の方からの「いわての学び希望基金」への御寄附は、「ふるさと岩手応援寄付(岩手県のふるさと納税)」にて承っております。申込を行う際には、ふるさと岩手応援寄付の対象事業の中から、「いわての学び希望基金に活用」をお選びください。

■ご寄附の方法(方法1又は2により申込)

方法1 インターネットで寄附の申込をする場合

「ふるさとチョイス」「楽天ふるさと納税」「さとふる」「ふるなび」の各ホームページから寄附のお手続きができます。なお、電子決済(クレジットカード、キャリア決済など)での納付には、方法1のみが対応しています。

方法2 申出書を県に送付する方法で申込をする場合

(1)「ふるさと岩手応援寄付申出書」をFAX、電子メール又は郵便で「お問い合わせ先」に送付願います。

(2)入金方法は下記のとおりですので、申出書に御希望の入金方法を記載してください。

- ①指定口座(※)への銀行振込
- ②県が発行する納付書による納付
- ③現金書留
- ④岩手県の窓口を持参

※振込口座については、「ふるさと岩手応援寄付申出書」に記載しています。

法人(団体)の方

■御寄附の方法

(1)「いわての学び希望基金寄附申込書」をFAX、電子メール又は郵便で下記お問い合わせ先に送付願います。

(2)(1)の送付後、寄附申込書に記載の専用口座に寄附金のお振込をお願いします。(法人・団体の方は、専用口座へのお振込のみに対応しています。)

■個人の方のお問い合わせ先

岩手県ふるさと振興部地域振興室
〒020-8570 盛岡市内丸10-1
TEL.019-629-5184 FAX.019-629-5254
E-mail AB0007@pref.iwate.jp

■法人(団体)の方のお問い合わせ先

岩手県復興防災部復興推進課
〒020-8570 盛岡市内丸10-1
TEL.019-629-6935 FAX.019-629-6944
E-mail AJ0001@pref.iwate.jp

寄附申込書類の入手方法について

■個人の方が使用する「ふるさと岩手応援寄付申出書」、法人の方が使用する「いわての学び希望基金寄附申込書」は右記の県ホームページから入手することができます。

個人の方



法人の方

いわての学び希望基金 Q&A

Q.現金での納付、クレジットカードでの納付は可能?

A個人の場合、可能です。(法人は、県所定の銀行口座への振込のみとなります。)

Q.税制上の優遇措置は?

A個人の場合、ふるさと納税制度の対象となり、寄附金のうち2,000円を超える部分について住民税と所得税の控除対象です。法人の場合、県に対する寄附金は、全額損金算入が可能です。

Q.県に申込書類を送付せずに寄附することは可能か。

A申込書類の提出がない場合には、寄附金受領証明書(法人・団体の場合:領収票)を送ることができません。受領証明書の送付を希望される場合には、入金前に申込書類を送付してください。

Q.毎年寄附を行いたいが、毎年、申込書類の提出が必要か。

A寄附者様のご意思と受領証明書の送付先の確認のため、寄附の都度、申込書類の提出をお願いします。

Q.ふるさと納税との関係は?

A上記の方法により個人が入金した寄附金は、ふるさと納税制度により寄附いただいたものとして取り扱います。

Q.海外からの入金が可能?

A県所定の口座への銀行振込により可能です。(振込手数料は、寄附いただく方の負担となります。)

Q.寄附した事実を公表したいが?

A寄附いただいた個人・企業等の皆様の御判断で、公表できます。

Q.寄附金の管理方法は?

Aいわての学び希望基金条例に基づき、確実な方法により運用しています。

詳しくは岩手県のホームページ

岩手県 学び希望基金

検索

で検索!



岩手県復興防災部復興推進課

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1

TEL:019-629-6935 FAX:019-629-6944